

多文化共生事業事例集

年度

30

団体名

(公財) 福島県国際交流協会

多文化共生のまちづくり促進事業

ジャンル

事業費総額 1,290 千円

意識啓発・地域づくり

事業名

外国出身県民と共に創る「ふくしまの『今』」発信事業
～外国出身県民対象にした「ふくしまの『今』」を伝えるフォトコンテスト～

特徴

福島県に暮らす外国出身県民目線のメッセージ（写真と母語等のメッセージ）を世界に発信することを通じて、外国出身者と共につくる地域づくりの一翼とした。

事業のポイント

◇震災後も福島県に暮らす外国出身者の「復興のために福島県のために役立ちたい」という福島県に対する想いを形にし、発信する場を提供した。
◇メッセージの説得力を増すために、実際に福島県に暮らしている外国出身県民自らが写真と母語等のメッセージを作成し投稿してもらった。
◇外国人目線での発信とするため、審査員を外国出身県民とした。

事業の背景・目的

◇東日本大震災から7年余りが過ぎたが、県外・海外における福島県の原発事故の風評が依然として続いている。
◇震災後も福島県で暮らす外国出身者の中には、福島復興の一翼を担いたいという福島県に対する郷土愛が醸成されつつある。
◇福島県に暮らす外国出身者が、フォトコンテスト「ふくしまの『今』」で現状を世界に発信することを通じて、外国出身者と共につくる地域づくりの一翼とした。

事業の概要

- 1 コンテストの実施

福島県内在住外国出身者を対象とした「ふくしまの『今』」を伝える写真とメッセージの公募によるコンテストを実施した。

 - (1) 対象：県内在住外国出身者
 - (2) 応募期間：平成30年7月下旬～9月19日（水）
 - (3) 応募総数：181点（応募者出身国21か国（不明13点含む））
 - (4) 審査方法：
 - ① 一次審査:9月21日、福島県内在住の外国出身県民5名（出身国：中国、インドネシア、ベトナム、カナダ、パラグアイ、アルゼンチン）を審査員とし審査会を実施し、41点を選定。
 - ② 最終審査:10月17日、審査員長安田菜津紀氏（フォトジャーナリスト）が、一次審査通過作品の中から、最優秀賞1点、優秀賞3点、入賞5点を決定。
- 2 表彰式の開催
 - (1) 参加者：受賞者6名を含む一般県民182名
 - (2) 日時：平成30年11月4日（日）14:00～
 - (3) 場所：ラコパふくしま（福島市）
 - (4) 内容：当協会設立30周年記念の場を活用した表彰式の開催及び審査員長の講演会の開催により、当事業を広く県民及び県内プレスに周知した。また会場内に入賞作品を展示するとともに、全作品をスライドショーにして上映した。
- 3 海外への発信

入賞作品9点について、海外配信（リリース）サービスを利用し、全世界に向け発信を行った。翻訳言語は9言語（日本語除く）（英語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、中国語簡体字、中国語繁体字）



一次審査の様子



受賞者の皆さん

事業実施における工夫点・事業の成果等

◇広報においては、フォトコンテスト応募者等に当協会のフェイスブックを使うとともに、シェアを促すなど、それぞれのSNS等による拡散を図った。

◇フォトコンテストの応募者の出身国は 21 か国にのぼり、また審査員の出身国は 5 か国と、多様な外国出身県民が関わる事業とすることができた。

◇表彰式を当協会設立 30 周年式典とタイアップすることで多くの県民（182 名）が参加し、地元メディアに掲載される等、成果を広く県民に披露することができた。

◇入賞作品を 9 か国語で海外プレスリリースし、全世界に向け、外国出身者の目線でも「福島の今」を発信することができた。

◇リリースをした Business Wire からレポートによると、掲載後の 11 月 29 日から 24 時間のビュー数は約 7,500 件で、平成 30 年 12 月 10 日時点で 15,456 件となった。

このほかにも多数の海外メディアページに掲載され、震災と原発事故からの復興について海外で関心が高い福島県の現状を、福島県に暮らす外国出身者の多彩な目線で写真とメッセージにより広く発信することができた。

◇入選作品は、当協会ホームページへも掲載した。



最優秀賞作品「Hope for good harvest」(程 同軍氏)

今後の課題・将来に向けての展望等

◇応募者のコメント等により、県内在住の多くの外国出身者が福島の良さを伝えたいというポジティブな思いを持っていることが分かった。

◇応募者及び審査員から、来年度以降のフォトコンテスト等の実施継続を望む意見が複数寄せられているため、今後、後継事業の実施について検討したい。

◇本事業の継承として当協会独自事業として、福島県の市町村在留外国人人数マップ等と一緒に入賞作品の展示を実施している（平成 30 年度 3 か所、令和元年度 3 か所）。作品で外国出身者の皆さんが表現している（福島への）郷土愛などの想いを広く一般県

民に伝えることにより、相互理解を深める契機となることが期待される。



巡回展示会

事業担当者のふりかえり

⇒福島県の風評払拭に関して、行政や日本人が発信するメッセージよりも、実際に福島県に暮らしている外国出身者が母語で発信するほうが、数段説得力があることは明らかである。今回、外国出身者とともに福島の復興という共通の課題に取り組んだ実践は、福島県の多文化共生の推進に繋がるものと自負している。

⇒応募作品はいずれも第二のふるさと「福島」へのあふれる思いが含まれた素晴らしい写真やメッセージでありました。外国出身者の皆さんの「ともに福島の『今』を世界に伝えていきたい」という強い思いを、今後の取組みに活かしていきたい。

⇒周知の際に、外国出身キーパーソンにも協力を依頼するなど、これまで培ってきた外国出身者コミュニティとの連携を活用した。今後もネットワークを醸成しながら様々な取組みに活かしていきたい。